



岩見沢分校の整備状況：
課外活動共用施設と自然観察圏

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, 良一 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9041

岩見沢分校の整備状況

— 課外活動共用施設と自然観察圏 —

橋 本 良 一

1. 課外活動共用施設

岩見沢分校学生の大きな期待を集めていた課外活動共用施設（鉄筋2階建、延面積 483㎡、集中暖房、工事費 7,490万円）は、昭和56年11月30日に完成した。

この施設は、課外活動を助成し、その効果を高めることを目的とした共同施設であり、使用目的別に各室が区分されている。

文化系・体育系サークル共用と連絡室となる、文化系共用室(1)と(2)、及び体育系共用室、会合・打合せ・練習のためのミーティング室と第一及び第二会議室兼練習室、印刷から製本までの作業ができる資料作製室、カラー自動引伸機等写真器具一式を揃えた暗室及び器具庫が設けられている。

近年、サークル数が増大する傾向にあり、現在は文化系19、体育系23、あわせて42サークル、644名の学生が登録されている。これら数多いサークルの活動がこの施設の利用を通して、より活発に行なわれることが期待される。

2. 自然観察圏

昭和56年度の環境整備工事をもって本分校校舎等の整備が終了し、新たに利根別自然休養林に続く敷地である「岩見沢分校(2)」43,728㎡を自然観察圏として整備し、本分校の特色あるカリキュラムを充実しようという計画が、57年度から実施に移された。

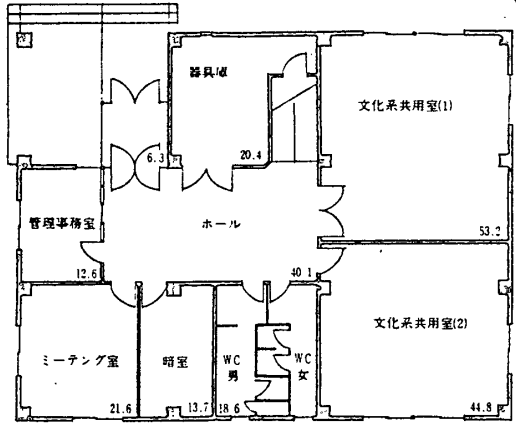
自然観察圏は、これまで農業実習地として利用されていたが、自然を生かした教育環境の場をつくることによって授業や学生の実験・実習の一助とし、あわせて課外活動にも利用できるよう、多目的な利用を考えて整備されたものである。観察圏内には400種に及ぶ樹木や野草が在り、野鳥、昆虫類も数多く生育しているので、これらを自由に観察できるよう自然林内に遊歩道がある。バードウォッチングのための観察小屋が数ヶ所設けられており、野鳥の保護と環境整備のために教職員・学生が協力して植えた、鳥の好む樹木には巣箱と給餌台が設置されている。牧草地であった平地の一部には50,000分の1の北海道を石で形どり、道内で産出する主要な岩石を集めて産地の位置に配した岩石園がある。

これとサッカー練習場をはさんで作られたのが植物変遷永久方形区である。これは既存の植物を除去した地表を10M四方の方形区で区切り、植物の安定生態系に至る過程・時間等を観察調査するためのものである。さらに観察圏内でいつでも活動できるようにスクーリングロッジも建てられている。

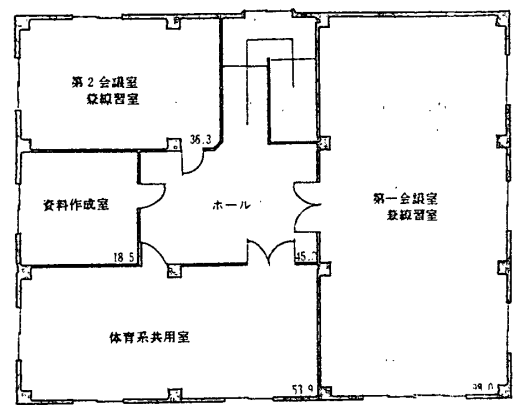
自然観察圏は四季（冬期間はツアーリングスキーに利用）を通じ、自然の生態を身近に観察するのに恵まれた所なので、今後も整備を加え、地域の小・中学校現場教師との共同研究の立場から、児童・生徒の自然観察の場としても広く活用されるようにして行きたいものである。

(本分校 教授 常務委員長)

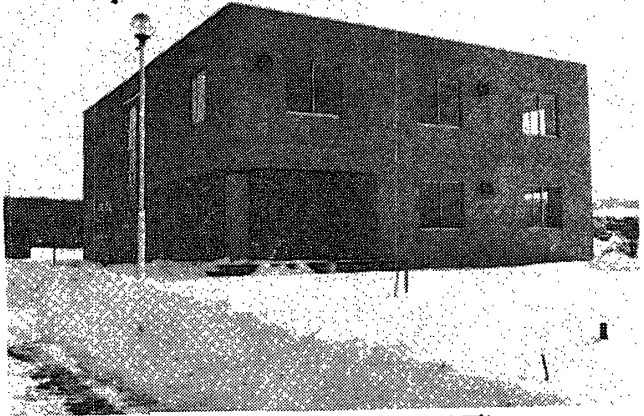
北海道教育大学岩見沢分校課外活動共用施設平面図



1階



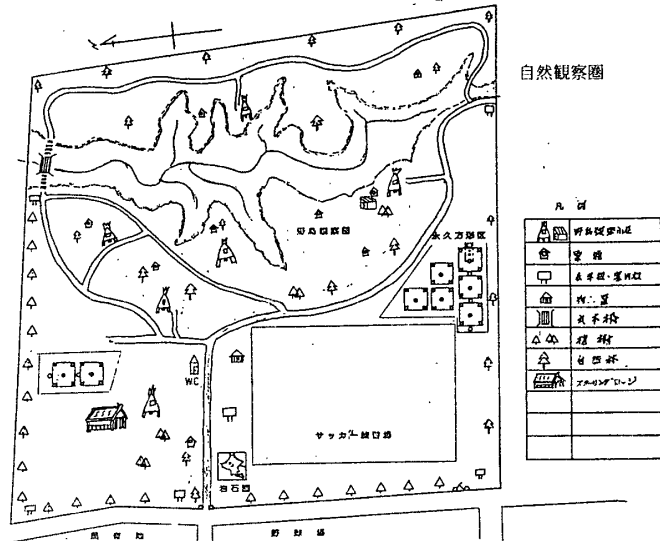
2階



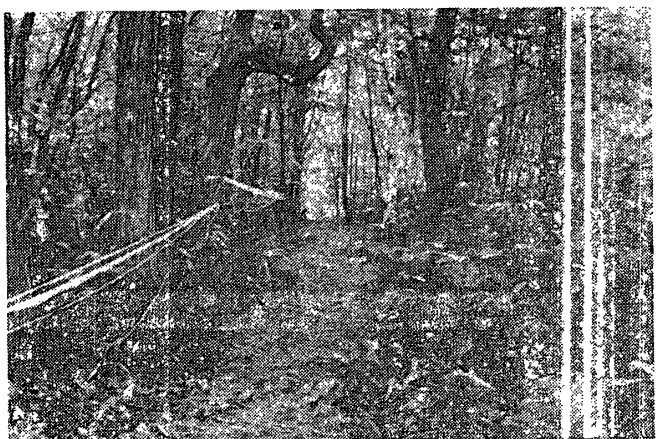
課外活動共用施設 (正面)



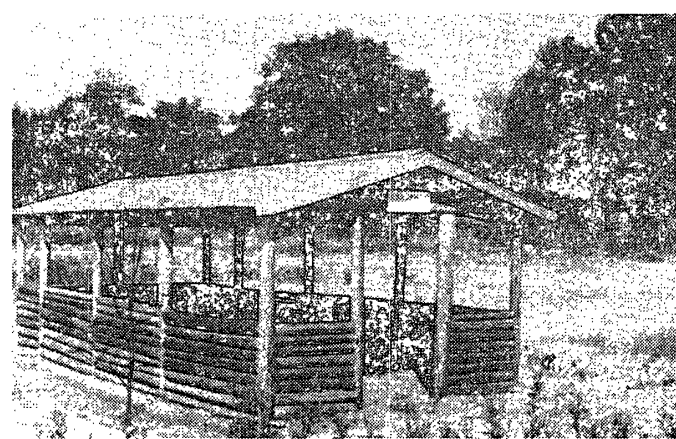
第2会議室兼練習室



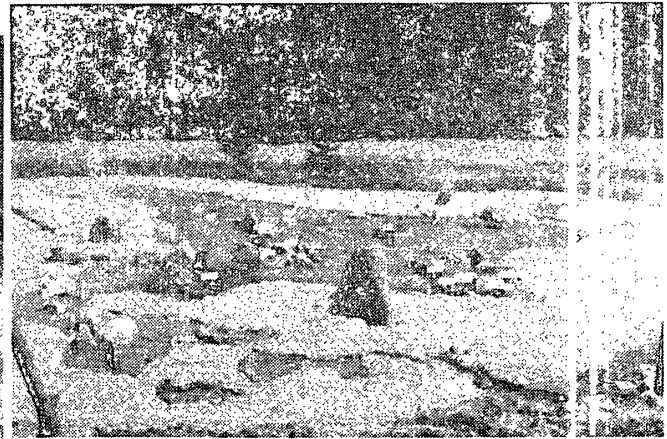
自然観察園



野鳥観察園 (遊歩道)



スクリーングロッジ



岩石園